

「アジア・パシフィック三菱ランサーディーラーチーム」派遣メカニック5名の選考会開催

杉本達也(CMSC大阪)、岡本春生(CMSC島根)両名 "香港～北京ラリー"メカニックとして参加決定!!



派遣メカニックに選ばれた杉本(右から二人目)、岡本(左)の両名。



ドライビング審査(上)とメカニック審査



集団面接



審査員の真剣なまなざし

この10月23日にスタートする'93香港～北京ラリー"には、「アジア・パシフィック三菱ランサーディーラーチーム」から、篠塚建次郎選手がランサーエボリューションで参戦します。今回の参加に際しギャラン系販売会社が全面的に支援。さらに、サービス隊に販売会社メカニックを派遣することとなり、その選考会が三菱自動車販売協会(会長・中島博 南大阪三菱自動車販売社長)とラリーアートの主催で8月31日～9月2日にわたり御殿場で開催されました。

最終選考会は静岡県御殿場市中畑の特設会場に、全国のギャラン系販売会社132社の約5,200名のメカニックの内、一定資格以上のメカニックを各社が推薦、さらに小論文審査で優秀と認められた12名が参

加して行なわれました。

第1日目は「香港～北京ラリー」に出場するランサーエボリューションなどの車輛説明があった後、それぞれの個人面接。第2日目は早朝のランニングなどの体力審査からスタートし、朝食後はチームによる足まわりの交換作業や決められた項目を短時間でチェックするなどのメカニカル審査をみっちり行ないました。昼食を挟んでからは、ドライビング審査。審査員の中には、世界的なクロスカントリーラリーに豊富な出場経験を持つ増岡浩氏(ラリーアート)も加わり、サービス隊メカニックとしての適性を検討。車輛メンテナンス終了後は、集団面接で中身の濃い1日が終わりました。そして第3日目、実際のラリーを想定したサービス隊のチェック作業を

審査して最終選考会のスケジュールを終了。午後の閉会式で「アジア・パシフィック三菱ランサーディーラーチーム」への派遣メカニック5名が発表されました。

派遣メカニック

- 杉本達也 (CMSC大阪 近畿三菱)
- 岡本春生 (CMSC島根 島根三菱)
- 矢沢正吉 (北海道三菱)
- 岩槻 茂 (新潟三菱)
- 井上 純 (西東京三菱)

「アジア・パシフィック三菱ランサーディーラーチーム」は'93アジア・パシフィックラリー選手権シリーズ第1戦「インドネシアラリー」第2戦「マレーシアラリー」に参戦して見事な成績を挙げています。今回の「香港～北京ラリー」は、同チームの第3戦目。総走行距離約3,800kmを7日間でアタックする苛酷なラリー。一般公道を走行するスピードラリーと、クロスカントリーのような耐久性が要求されるため、サービス隊もラリーと一緒に香港～北京間を移動することとなります。

任務の重いサービス隊。その中で我らがCMSCの杉本、岡本の両名が活躍してくれることを祈るうではありませんか。

年々盛大に

8月21日(土) エビスサーキット (福島県二本松)

総勢230名、90台参加の'93CMSC全国大会



開会式、外川会長の挨拶



8月21日、'93CMSC全国大会が開催されました。昨年に続き東北サファリパーク・エビスサーキットの会場で全国から本部および各支部のメンバーと、その家族を含めて総勢約230名が集合。千葉三菱の篠崎社長をはじめ全国主幹販売会社の方々にもご参加いただいて、盛大に開催されました。

当日は、朝靄のなか地元CMSC福島のメンバーをはじめ大会スタッフの会場セッティングが行なわれ、9:30から受付開始。各車車検の後、各ドライバーの慣熟歩行がなされました。そして、いよいよ開会。外川会長の挨拶を皮切りに、ドライバーズミーティングが入念に行なわれ、最終の慣熟歩行の後、第1ヒートスタート。90台の参加で、FFクラスから、4WDクラス、FRクラス、軽クラス、オープンクラス、レディスクラスの順でスタートしていきました。各ドライバーも全国大会のイベントとは言え、か

なりマジな走りや奥からのスピードの出る下りでは、気合いの入りすぎでミスコースも見られる程の白熱したタイムトライアルとなりました。第2ヒートに入ってから、小雨が落ちてくるような空もようになりましたが、依然、各車の走りは熱の入ったもので逆転優勝あり、逃げ切りありの状況。こんなはずじゃないんだけど首をひねっている方や、満足できる走りができてガッツポーズをとるドライバーなど様々な表情が垣間見れました。家族連れで参加されていた方も楽しそうに観戦されていてファミリーな雰囲気と、ほどよい緊張感が入り交じってのタイムトライアルも無事終了。

場所を表彰式会場に移して外川会長の閉会の挨拶。菅野審査委員長からは「皆さんのパワフルでダイナミックな走りが見れて、とても楽しい大会でした。」とお言葉。三菱自工の田口氏からはジムカーナの

テクニックについてのアドバイスがいただきました。そしてクラス別、団体の表彰のあと、メインイベント!?のバーベキューパーティ。7:00開宴を待ち切れず早々に場所取りをして牛が焼けるのを待ち構えているグループもあって、開宴の挨拶、乾杯、花火の音とともにパーティーは始まりました。ビンゴゲームでの真剣なまなざし、賞品を狙う目はステアリングを握っている目よりも真剣で、「ビンゴっ」と駆けてくる足はどの車よりも早かったように思えました。サファリパークの駐車場を占領しての盛大な野外パーティ。各チーム同士も和やかに歓談。そしてワイルドな料理に満足しての一日がアツと言う間に過ぎていってしまいました。また、来年もこの楽しい全国大会でお会いしましょう。

そして、最後にCMSC福島、関係者の皆さん、いろいろとありがとうございました。



CMSC島根



CMSC青森



CMSC福島



CMSC仙台



CMSC札幌とCMSC帯広



CMSC愛知



CMSC香川

全国から集まった
CMSC
各支部紹介



※CMSC広島は後のページで紹介



CMSC山形



CMSC埼玉



CMSC岐阜



CMSC岩手



千葉三菱・篠崎社長の乾杯



CMSC栃木



CMSC千葉



CMSC群馬



CMSC大阪

'93CMSC全国大会 クローズドジムカーナ 結果



支部対抗の表彰(右より1位~6位)

支部対抗

(各支部高得点3名のポイント合計)

1位	CMSC山形	42ポイント
2位	CMSC福島	39ポイント
3位	CMSC青森	30ポイント
4位	CMSC埼玉	19.5ポイント
5位	CMSC岩手	19ポイント
6位	CMSC仙台	18ポイント
7位	CMSC帯広	17ポイント
8位	CMSC大阪	17ポイント
9位	CMSC岐阜	16ポイント
10位	CMSC島根	12ポイント

FFクラス



FFクラス1位、庄司選手(CMSC山形)

4WDクラス



4WDクラス1位、上泉選手(CMSC福島)

オープンクラス



オープンクラス1位、小館選手(CMSC青森)



FFクラス1位~6位の表彰(右より1位)



4WDクラス1位~10位の表彰(右より1位)



オープンクラス1位(右)2位の表彰

1位	庄司 明	山形	1'14"55
2位	鈴木 正孝	福島	1'14"95
3位	鈴木日出明	山形	1'16"05
4位	櫛田 正文	岐阜	1'16"27
5位	国谷 益雄	島根	1'17"67
6位	三枝 重光	岐阜	1'17"86
7位	杉坂 啓一	島根	1'19"01
8位	本間 孝一	山形	1'19"02
9位	三谷 義和	千葉	1'19"37
10位	阿部 由和	愛知	1'19"83

1位	上泉 晃祥	福島	1'13"79
2位	平塚 忠博	千葉	1'15"39
3位	葛西 満	青森	1'16"77
4位	杉本 達也	大阪	1'16"82
5位	桜庭 雅人	青森	1'17"41
6位	宇佐見直巳	埼玉	1'19"88
7位	森 新次	香川	1'19"97
8位	宝田 芳浩	札幌	1'19"99
9位	吉野 正則	愛知	1'20"32
10位	岩下 利勝	大阪	1'20"65

1位	小館 久	青森	1'14"48
2位	花田 伸行	青森	1'15"59
3位	福島 末佳	大阪	1'16"80

FRクラス



FRクラス1位、後藤選手(CMSC仙台)

軽クラス



軽クラス1位、高野選手(CMSC仙台)

レディースクラス



レディースクラス1位、和田選手(CMSC山形)



FRクラス1位(右)2位の表彰



軽クラス1位(右)2位の表彰



レディースクラス1位(右)2位の表彰

1位	後藤 庄悦	仙台	1'18"28
2位	亀倉 試	埼玉	1'24"51
3位	町田 俊英	栃木	1'24"83

1位	高野 智	岩手	1'27"06
2位	伊藤 禎輝	山形	1'30"30
3位	瀬戸 徹	埼玉	1'31"70

1位	和田かおり	山形	1'19"52
2位	石原摩紀子	群馬	1'26"49
3位	宇佐見康子	埼玉	1'36"91



'93CMSC全国大会に参加して

CMSC広島

CMSC広島を発足し、初めての全国大会ということで、是非参加したいという多くの声のなか今回は2組6人が参加させていただきました。開催場所が福島県ということで2組共覚悟を決め、デリカとランサーエボリューションのランデブー走行で広島を出発、途中睡魔に襲われながらもなんとか無事福島の会場へ到着することが出来ました。

これまで、当クラブはダートラ&ラリーを中心とした活動をしており、舗装でのジムカーナは初めてということもあり、どうなることかと思ながら参

加してみると予想通り悲惨な走りを披露してしまいガッカリノしかし、和気あいあいとした雰囲気の中、全国のCMSCクラブ員と共に同じ時を過ごせたという充実感を得ることができ「参加して良かった」と感謝すると同時に、全国大会を開催していただいた関係者の方々、オフィシャルをしていただいたCMSC福島の方々に対し、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

来年は走りの方にも磨きをかけ、また全国のCMSCの皆様と会えることを楽しみにしております。来年もよろしく!!

(CMSC広島 古田 耕作)



◆ご協賛いただいたスポンサー(アイウエオ順)

IPF株式会社
株式会社旭通信社
青木科学研究所
株式会社アライヘルメット
エンパイヤ自動車株式会社
オーツタイヤ株式会社
カヤバ工業株式会社

株式会社キャロッセ
株式会社サミット
株式会社ススコジャパン
株式会社タスカエンジニアリング
株式会社テスト&サービス
株式会社東京映像社
東洋紙業株式会社

栃木富士産業株式会社
日本特殊陶業株式会社
株式会社プリチストン
ボッシュロム・ジャパン株式会社
ミシュランオカモトタイヤ株式会社
ミツワモデル株式会社
横浜ゴム株式会社
株式会社ラリーアート

余興イベントが大ウケ

CMSC島根

'93CMSC島根ジムカーナ

7月18日

毎年くどいようですが「CMSC島根の大会は必ず晴れる。」のです。夜中まで続いた集中豪雨も濃霧も、当日「雨」の天気予報も、出走時になれば「スーパーDRY」。クラブ員一同がこの日のために日頃の行いを良くしているからに違いありません。冗談はともかく、コースは試走ランサー向き(?)のサイドブレーキ引きまくり中速コース。山陰地区Jr

戦の平均的台数60台ほどの出走でしたが、例年の如く全日本戦入賞選手が何人も参戦しノリノリのアナウンサーと共に大いに盛り上げてくれました。また余興イベントの「クラブ対抗ミニジムカーナ」が大ウケ。3人1組で40mのコースをドライバーチェンジしながら走るという、クルマの性能より俊敏な動作が要求されるゲームで10チームが参加しました。某全日本ドライバーは「本戦よりも楽しかった。今日はテンポのいい大会ですね」と絶賛しきりでした。

(CMSC島根 古藤 浩美)



役者揃いのエントラント

CMSC島根

'93CMSC島根チャレンジカップ

8月1日

今年も日本海シリーズ第5戦として8月1日に'93CMSC島根チャレンジカップを比田スポーツランド山陰で開催しました。

台数は相変わらず少なくとも40数台のエントリーだったのですが、エントラントには全日本クラスのドライバーも出場したりして、なかなかの役者ぞろいでした。出走車の方もAIIIクラスは殆どランサーのワ

ンメイク化してしまいました。その中で、ランサーを駆る全日本選手の田口盛一郎氏の息子、やはり全日本ドライバーの田口勝彦選手がブッチギリの優勝を果たしました。AIIクラスもミラージュが多数出場して善戦しました。

コースは一部若干のウェット状態で区間ごとにグリップが変わって、各選手コントロールが難しそうでしたが、転倒車も無くノートラブルで順調にイベントを終了することが出来ました。クラブ員の皆様、ご苦労様でした。

(CMSC島根 北脇 幹人)



来年こそSSの許可を!!

CMSC香川

'93CMSCダイヤスターラリー

6月19、20日

6月19~20日に、シリーズ第4戦として'93CMSCダイヤスターラリーを開催しました。フルグリッドにはなりませんでしたが、シリーズポイントを争う有力どころを含む49台のエントリーがありまし

た。香川県内でもSSの設定が困難で、3つのハイアベレージ区間と9つのラリー区間というレイアウトになりました。

成績の方は、Cクラスではランサーが1,2位(1位はCMSC広島島の岩根選手)、Bクラスではミラージュが1,2,3位を独占しました。今年も三菱車強し!!という結果に終わりました。来年は何とかSSの許可を取りたいと思います。近くの支部の方の参加を待っています。



(CMSC香川 白井 修)

エントリー55台確保に一苦労

CMSC福島

CMSCダイヤスタージムカーナINエビス

4月18日

CMSC福島は毎年2回以上ジムカーナイベントを主催しています。今年は4月18日と12月5日です。ところが今回は例年とは大変違っていました。いつもだとエントリーメット切日までに80台以上のエントリーがあるのですが、今年はタイヤ規定とかバブルが弾けたとか、いろいろお金に絡む問題が多く、エントリーがあまりに少なくパニック状態。このままでは大会も開けないほどで、それから顔色を変え

ながら電話誘致大作戦。なんとか55台まで台数を掻き集めてイベント開催となりました。

当日は雨もなくスムーズに事は運びましたが、前日までの焦りのため集合写真は撮れませんでした。

(CMSC福島 須田 行雄)

2連勝で 逆転チャンプを狙う

CMSC福島 須田 行雄

ジムカーナB地区戦出場レポート

今年私はランサーエボリューションでB地区戦に出場しています。昨年までのミラージュと違い、パワーもありタイムも出るようになって、第5戦では1年半ぶりに優勝することができました。ポイントもトップになって、これからと思っていたのです。

しかし、シリーズも後半になって練習不足がもろに出て、本番当日、1トライ、2トライともうまく行った大会がなく連発でずるとランキングも落ちて、今現在は3位となってしまいました。しかし、まだ3位。チャンピオンを狙える位置にはとどまっています。まだ残り2戦あります。2連勝すればチャンピオンが取れるので、なんとかガンバリたいと思います。

弱冠18才の大器出現!!

CMSC帯広

第9回CMSC帯広コルトダートトライアル'93

8月8日

今回のコルトダートトライアルは、まさに鎌田卓麻ミラージュ4WDの為の競技会となりました。弱冠18才、ダートラ3戦目、しかもAIII車両で総合優勝

をも奪ってしまったのです。今回、審査委員長には全日本ラリーBクラスで活躍中の鎌田豊氏に務めていただき、試走でその走りを披露していただいたのですが、そのタイムをも大きくぶっちぎったのが鎌田卓麻選手だったのです。

実はこの選手、18才の新人とは言っても物心ついた時から山の中を走り廻っており、ダート経験は十二分。先日の北海道J1ラリーでもSSはぶっちぎ

りだったのです。年齢制限の為、北海道チャンピオン戦ラリーには参加出来ませんが、今話題の少年なのです。まったく末恐ろしいガキ、いやお子さんののです。そう、鎌田豊氏の一人息子なのでした。このまま成長すればWRCも夢じゃない!

ちなみに総合2位は馬淵ランサー、3位は青木マイベックミラージュと、総合でも三菱車の上位独占と成りました。(CMSC帯広 青沼 達也)

全国転戦は、すでに生活の一部

CMSC大阪 藤原 雄一郎

全日本ダートラ転戦レポート

「ランサーエボリューション」で全日本選手権A-4クラスを転戦しています。現在の全日本選手権は8クラスに分かれています。A-4クラス(ナンバー付きの2000cc以上)は最も参加台数も多く、注目度の高いクラスです。その理由は、1つにはこのクラスのクルマは基本性能が高いので、乗っていても見てもスピード感があって面白いことです。もう1つは参加している選手のレベルが高く層も厚いので競技性に富んでいることです。実際にこのクラスの選手は過去に他のクラスでチャンピオン争いをした選手が多数集まってきており、このクラスから出て行く選手が少ないために戦いは激しさを増す一途になっています。

私自身も昨年度よりこのクラスに移行したひとりなのですが、予想どうりレベルの高さについていけず、成績は競馬に例えていえば「中位凡走」ということになります。本人はそれなりにガンバッテいるつもりなのですが、ゴールして場内放送でタイムを聴くと、急に落ち込んでしまいスゴスゴとパドック

に引き上げていくのが習慣になってしまいました。クルマが悪いわけでもなく(優勝車はランサーだ)単にドライバーのウデに原因があるのは明白なのですが、このクラスに移る前は上位入賞することが多かったので、出番のない表彰式をすごすのが寂しい昨今です。幸いにも今年度は予選落ちしていないのが(昨年は多かった)せめてもの救いなのですが、予選で精力を使い果たしてしまい、決勝で集中できない状況になっているような気がしています。

全日本選手権が全国転戦になってから今年で5年目になりますが、最近はやや人気は下降しているような気がしています。初年度の頃は転戦しているメンバーが近畿地区だけで20名近くいたのに、今年はその半分以下になっているのが残念です。私自身の実感としては、全日本選手権の魅力がなくなったわけではなく、競技自体は十分にコンペティティブでありエキサイティングだと思っています。そして何よりもこの5年間を転戦してきたという共感が転戦しているメンバー同士の連帯感につながっており、日本全国に解り合える友人ができたような気がしています。もう全日本戦を転戦することが生活の一部になってしまっていて、日本全国を気の合った友人達と共通の目的を持って旅行しているような気持ち



で、すごく自然で充実感のある出来事になっています。「いつの日か、この世界から足を洗う日が来たらどうしよう」というのが今の最大の心配事になっているボクは幸せな人なのでしょうか?

ドライバーの技量で勝負を!

CMSC帯広 山口 善則

'93全日本ダートトライアル第6戦

1993 DIRT TRIAL in HOKKAIDOに初めて参加しました。三笠市奔別川端町内の石炭工業敷地で行なわれました。全日本ラリーのSSステージにも使われたことのある会場です。予選土曜日は朝から雨で路面はスリッピーになりました。スタートから第2コーナーまではアスファルトで、このグラベルの第1コーナーでアクシデントが多数あり、リタイヤをしたエントラントが出ました。ここには石碑があって、吸い寄せられるように、コースアウトが多く出たのかもしれませんが。この会場は、夜1人きりにだけは「絶対」なりたくない所でした。前にここで写真を取ったところ、多くの「顔」のような物が写っていたそうです。

決勝日には雨も上がり、2本目にはほこりも出る

ようになり、ベストタイムのオンパレードになりました。中間でのタイムアナウンスもあり参考になりました。ただ残念だったのは、ストレートの速さがマシンによって大きな差があったことで、フル加速している時のエンジン音が、同じ車種でもはっきりちがう物が少なくとも2種類あるのがわかりました。耳にはしていましたが、あれもノーマル!?これもノーマル!?タイムで見てもA-4のベストスリーが改造車のC-3のクラスに入れても2位、3位、4位になってしまうということになります。ギャラリーには、大会全体としてはおもしろかったとは思いますが、残念です。

ノーマルエンジンでは、ランサーがインプレッサより遅いとは思えないのですが、ここまでしないと全日本戦は戦えないのでしょうか?私はイコールコ



ンディションでドライバーの技量による戦いをしたいだけなのです。それよっての勝利者は尊敬できるのです。

来年も行きたいNZラリー

CMSC千葉 勅使川原 光 '93ニュージーランドラリー参戦記

「楽しんでいるかい？」
S Sのゴールでよくオフィシャルに聞かれる。
「Yes.Of course」
と答える。日本でのラリーと雰囲気が違う。オフィシャルもギャラリーもエントラントもサービス隊もラリーを楽しんでいる。S Sトータル約500km。総距離2000km。スケールが違うだけではなかった。
「本当に完走して良かった」
最終S Sが終わり、サービス隊の顔を見た時に何度

も何度もそう思った。自費でサービスに来てくれた人達。仕事を休んで家族ぐるみで手伝ってくれた現地ヘルパーの人達。ドライバーとナビゲーターだけのラリーではなく、チーム全員で成し遂げた達成感というものがあった。「総合18位、Nクラス7位」ワークスが大学エントリーした今回。初出場としての成績はまずまずのものだと思う。

「来年も行きたい！」
来年は資金面での問題をクリアし、グループNで優勝争いができる体制で臨みたい。最後になりましたが、サービス隊をはじめスポンサーの方々、色々な方にお世話になりました。本当に有難うございました。来年もよろしくお願い致します。



興奮の全日本ラリーオフィシャル初体験

CMSC帯広 ツール・ド・ミカサ

帯広の凸凹夫婦がツールドミカサのオフィシャルのお手伝いをして参りました。何しろ二人とも全日本戦は見るのも初めてでしたので初日から大騒ぎ！いつもは雑誌でしかお目にかかれぬ人や車がウジ

ャウジャいるのですからドキドキものでした。さらに仕事でS S管理でしたので、林道の真只中でスーパーテクニックを見ることができ、ますます感激しました。そしてなんと夕間のS Sではインプレッサのバックファイヤーを見ることができ「WRCのようなだなあ」と思っていました。(ちなみにランサーは火を出していませんでした。エライ。)何はともあれ、睡眠時間4時間で頑張った2日間は大変でし

たが、とてもいい経験ができました。最後にいつもオフィシャルに優しい声をかけてくれた大庭選手、どうもありがとうございました。これからも優しいラリーस्टでいて下さい。(CMSC帯広 生井 重男・史枝)



CMSCに入会して CMSC岐阜

CMSCに入会して、全国で開催される全日本ダートトライアルに出場する中で、全国的組織であるCMSCのクラブ員の人たちとの情報交換などが、全国の大会会場でできました。今まで以上に有利な

戦いができ、これだけ大きなクラブだからこそのメリットだと思います。今はとても楽しく全国を周ることができるようになりました。
また車両についても、昨年の車両とは大きく違って、ランサーエボリューションは大変乗りやすくコントロールしやすく、どんなコースでもアクセルを踏み込んでいけます。完成度が高く、タイムの出しやすい車両だと思います。セッティングも大分決

まってきたので、後半戦は更にCMSCのクラブ員であるメリットと、戦闘力のあるランサーEVで、よい成績につなげていきたいと思っています。(CMSC岐阜 北村 和浩)



山形V7危うし。群馬がトップに!

'93チャレンジカップ

V7を目指して好発進した山形。順調にポイントを増やしていましたが、群馬がそれを上回る勢いでポイントを獲得。遂に、山形を捕えました。個人部門でも動きが見られてますます目が離せません。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	合計
群馬	477	669		1146
山形	598	511		1109
青森	462	471		933
帯広	269	429		698
岐阜	385	264		649
札幌	282	315		597
広島	172	408		580
岩手	227	266		493
香川	312	102		414
福島	173	157		330
島根	163	103		266
千葉	125	94		219
仙台	29	75		104
愛知	97	5		102
大阪	17	62		79
栃木	70	9		79
埼玉	14	10		24

●ラリー・ドライバー部門

奴田原文雄	札幌	210
小林康弘	帯広	138
岩根つる	広島	114
勅使川原光	千葉	94
渡辺俊昭	山形	66
丹羽浩道	千葉	62
三谷義和	千葉	60
対馬雅人	青森	60
鷲見宏康	岐阜	40
平原和幸	広島	38

●ラリー・ナビゲーター部門

伊吹浩明	帯広	122
岡田祥昌	広島	114
朝岡達也	愛知	70
対馬隆正	青森	60
今野泰正	山形	42
横田浩一	広島	38
永沢裕之	青森	34
青木 功	栃木	28
金子 弘	群馬	20
間宮宏幸	岐阜	19

●ダートトライアル部門

宝田芳浩	札幌	352
荒井信介	群馬	319
大井こずゑ	群馬	319
赤羽政幸	山形	300
榎田正文	岐阜	274
菅野 茂	山形	229
高竹優之	香川	220
岩田恒廣	群馬	194
大井義浩	群馬	180
館山正嗣	青森	178

●ジムカーナ部門

小館 久	青森	282
須田行雄	福島	198
上泉晃祥	福島	104
鈴木日出明	山形	50
青沼達也	帯広	38
伊藤良伸	島根	25
坂本 均	青森	22
斎藤剛栄	青森	21
荒井信介	群馬	20
葛西 満	青森	16

●レース部門

小川日出生	山形	36
今野広志	仙台	30
瀬在仁志	埼玉	24
荒井信介	群馬	12
小出辰彦	愛知	10

●ポイントのつけ方

リタイアには予選不通過も含む

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント	A 40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
	B 20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A = 全日本選手権、地方選手権
但し、ダートトライアルにはオールスターダートトライアル
ジムカーナにはJAF CUPジムカーナ
レースにはフォーミュラ・ミラージュ、ミラージュカップを含む
B = それ以外の競技会